

携帯・スマホは高校生になってから—これは我が家の決まりの一つです。理由は、きちんと分別のつく年頃になってからでないと、いわゆるスマホ依存症になってしまうと両親が判断したからです。こういう訳で、私もはじめのうちは早く高校生になりたいと思っていました。家のパソコンには私の知らないパスワードがかかっていますから、両親のうちどちらかに用件を伝えなければ使うことが出来ません。友人達がスマホを使いこなしていたことも手伝って、依存症にこそなりたくないものの、やはり少し背伸びをしてみたかったのだと思います。しかし念願のスマホが手に入る日が近づくにつれ、私のスマホに対する気持ちはだんだんと冷めていきました。欲しくないともまではいきませんが、必要ないのではないかと考えるようになったのです。

理由は主に二つあります。一つ目は周囲の人々から受ける印象です。「昨日、気づいたら三時間もスマホいじってた。」とか、「勉強しようと思ってもついついスマホいじっちゃうんだよね。」などという会話を、普段生活している中でよく耳にします。会話の中で“スマホ”という言葉が何度も出てくるのを受けて「そんなにも日常生活の中に大きな影響を及ぼしているのか。」と感じてしまいます。

生徒手帳に記載されている“恵泉生ケータイ・スマホ五つの約束”や一年生の時に受けた講習からもスマホに対する悪い印象を受けました。というのも、そもそもスマホをやり過ぎなければ、このような決まりや会を設ける必要もないはずだからです。

二つ目は三年生の国語 a の時間に先生に見せていただいた風刺画です。今回の感話のテーマに最も関連するところですので注意して聴いていただければと思います。その風刺画には、スマホを持った腕を両面から生えたタコの足のようものが、がっちりつつかんで離さない様子が描かれていました。先程も申し上げた通り、普段から周りの人々のスマホの使用状況を目の当たりにしている私にとり、その絵は本当によく現代人を風刺していると思えてなりませんでした。私がスマホは必要ないのではと感じたのは、それを手にしたことで自分も誘惑に負けてしまい、その絵のようになってしまうのが怖かったからです。テスト期間でも弟がテレビを見ていると、つい一緒になって見てしまう私なので、スマホを持った時、その誘惑に勝てるとは言えません。別に今のままでも普通に生活出来ているのだから、スマホなどなくていいという思いが一層強くなりました。

国語 a の時間に風刺画を見た、と言いましたが丁度この時、「つながりとぬくもり」という説明文を読んでいた。そこには現代の若者達が携帯・スマホを通して常に誰かとつながっていたい、と思う理由について書かれていたのですが、私は家族でもない人と常につながっているべきではないと思います。例えば友人と喧嘩した時、今でこそスマホを介してすぐに謝ることが出来てしまいますが、一昔前までは一晩かけてじっくりとそのことについて反省し、どのように謝るのがいいかな、などと考えることが出来ました。新幹線等の移動時間が短くなる程、途中で景色を楽しむことが難しくなるように、なんでもかんでも早ければいい、という訳ではありません。また、本来家族と過ごすはずの時間を友人達とつながるために当ててしまうのは非常に勿体無いと思います。もし親がずっとスマホを見ていて子供の

言うことも話半分でしか聞かないようだと、子供は愛情を十分に受けずに育ってしまうでしょう。その結果、自分の子供にどのように接すればいいのかわからず児童虐待につながる可能性が高まります。

そもそも友人達とつながっているとしてもそれはスマホを介してであって実際に目の前に本人がいる訳ではありません。先程の風刺画ではありませんが、これではスマホとつながっている、と言っても過言ではありません。

スマホとつながる時間と家族と過ごす時間。どちらが大切かは一目瞭然です。私がスマホを手にする時にはこれらのことを良く理解し、今まで通り家族との時間を大切にしながら使っていきたいと思います。